

氏名	郭 明
学位の種類	博士（教育学）
学位記の番号	甲第 220 号
学位授与年月日	2019（平成 31）年 3 月 20 日
学位授与の要件	学位規則第 5 条第 1 項該当
学位論文題目	現代中国中等地理教育の動向—「ESD」と「GIS 教育」を通して—
論文審査委員	主査 田部 俊充 （教育学専攻 教授） 副査 齋藤 慶子 （教育学専攻 准教授） 副査 丸林実千代 （教育学専攻 准教授） 副査 池 俊介 （早稲田大学 教授） 副査 井田 仁康 （筑波大学 教授）

論文の内容の要旨

本研究の目的は、中国本土の現代中等地理教育の動向について、教育課程、学習内容、指導法を中心に、ESD（Education for Sustainable Development＝持続可能な開発のための教育）および GIS（Geographic Information System＝地理情報システム）教育の視点で分析・検討することを目的とする。

序章「研究の目的と方法」では、研究の目的、背景および意義、研究の視点として ESD と GIS 教育の捉え方を示し、中国の地理教育に関する先行研究の動向、中国国内での地理教育に関する先行研究の順に整理した。

中国の地理教育における ESD と GIS 教育が、近代化に伴って教育計画に組み込まれ、日本より早い段階で地理教育の課程で取り組まれていたことを指摘した。中国における ESD は、国連の動向の影響を受け、国家発展の基本戦略のひとつに定められた。地理学以外の分野が持続可能な発展に関わる枠組みを引き受けにくかったため、ESD は地理教育を中心に取り扱った。一方、1990 年代、中国の高校では、地理の必修科目と選択科目が設けられ、「高校地理課程標準（2003 年）」において GIS 教育が明記された。

第 I 章「中国における教育課程と地理教育の位置づけ」では、中国の学校教育制度と教科書制度の整備・充実について整理した。「国定制」から「検定制」への変遷を踏まえ、全国における現行の中学校（8 社）と高校（4 社）教科書目録に登録された地理教科書を「人教版」と「湘教版」を中心に整理した。日本の学習指導要領に相当する「地理教学大綱」や「地理課程標準」の変遷および地理課程における ESD と GIS 教育に関する扱いを考察し、中国地理学会の役割を明らかにした。

第Ⅱ章「現代中国の地理教育の現状」では、中国地理学会と地理教育の関わりを明らかにするために、中国地理学会人文地理学学術年会、中国地理学会華北地区黄河分会学術年会、中国地理学会西南地区学術年会の検討・分析を通して、地理学は中国の国家発展戦略と都市発展の問題に有効な意見が提案できるだけでなく、先進的な地理情報技術を使って、各分野に貢献できる役割を果たしていることを明らかにした。また、地理学と地理教育人材育成の点では、将来を見据えた社会づくりに必要な要素も組み入れ、人材育成の役割を果たしていることも確認することができた。

第Ⅲ章「中国の中学校地理教科書における ESD の扱い」では、現行の「義務教育地理課程標準(2011年)」、「人教版」と「湘教版」刊行の教科書における ESD の扱い及びそれらの学習内容に対応する教師用指導書における指導内容を分析・検討した。その結果、3つの示唆を得た。1点目は、中国全土にわたる多様な地域において、ESD につながる具体的な行動や取り組みの現状を学ぶ内容の設定があること。2点目は、教科書における ESD の見方・考え方の形成を「トピック」や「活動」のコラムを用いて生徒自身に思考・判断・表現させるだけではなく、討論やディベートを通じて、論理的・批判的思考力や読図能力、ディスカッション能力などが求められていること。3点目は、中国において ESD の必要性が強調されていること、である。中国では、人口、資源、環境、経済発展の四つの調和を重んじ、そのために ESD の見方・考え方の形成を働きかけている。具体的には自然環境と人間活動間の複雑な関係の初歩的な提示を中心に、学習内容やコラムを設定している。

第Ⅳ章「中国の高校地理教科書における ESD の扱い」では、「高校地理課程標準(2003年)」、「人教版」と「湘教版」刊行の必修地理教科書における ESD の扱い及びそれらの学習内容に対応する教師用指導書における指導内容を分析・検討した。その結果、4つの示唆を得た。1点目は、中国において、ESD の三つの柱として社会・経済・生態（資源と環境）が重視され、その三者をうまく調和させるものが「人による管理調整」と捉えたこと。2点目は、中国における ESD に関する学習内容が地理学と深く関わっており、自然地理と人文地理の視点で捉えており、中国の自然地理、人文地理への対応を生徒に理解させ、ESD の見方・考え方の形成が求められていること。3点目は、「活動」、「トピック」などのコラムが多く設けられ、生徒個人の育成が求められており、正確な人口観、資源観、環境観と発展観を樹立することを目指していること。4点目は、『中国 21 世紀アジェンダ』における ESD 全体の枠組みを学ぶ内容を設定していること、である。

第Ⅴ章「中国の中学校地理教科書における GIS 教育の扱い」では、現行の「義務教育地理課程標準(2011年)」、「人教版」と「湘教版」刊行の教科書における GIS 教育の扱い及びそれらの学習内容に対応する教師用指導書における指導内容を分析・検討した。「人教版」の教科書では地理情報技術として電子地図やリモートセンシングを取り扱っていることを明らかにした。

第Ⅵ章「中国の高校地理教科書における GIS 教育の扱い」では、現行の「高校地理課程標準(2003年)」および「人教版」と「湘教版」刊行の必修地理教科書における GIS 教育の扱い及びそれらの学習内容に対応する教師用指導書における指導内容を分析・検討した。その結果、3点の示

唆を得た。1点目は、GIS が都市管理、プロセスやその発展、構成をはじめとして、多くの学習内容を設けていること。2点目は、「思考」、「トピック」、「活動」といったコラムを設けていること。3点目は、「思考」、「トピック」のコラムおよび記述内容とともに多くの図が設けられ、GIS 教育に関する学習内容をわかりやすく示していることである。

終章「結論」では、本研究の成果と今後の課題を挙げた。

本論文は、中国の中等地理教育の「義務教育地理課程標準(2011年)」と「高校地理課程標準(2003年)」を中心に分析・検討し、「人教版」と「湘教版」の地理教科書における ESD と GIS 教育の実態や「人教版」と「湘教版」の教師用指導書における指導内容の分析・考察をしたことで、現代中国の中等地理教育の全体像を明らかにした点が評価できる。

また本研究は、現代中国中等地理教育の動向に関する基礎的研究と位置付けることが出来る。日本の中等地理教育は2022年の高校必修科目「地理総合」の新設をはじめ、大きな変革を迎える。新設科目「地理総合」においてESDとGIS教育は重要な位置を占めるが、今後に向けて多くの課題を抱える。日本の課題を解決するために本研究は寄与すると考える。

次に、今後の課題として、中国及び日本の中等地理教育への具体的な方向性の提示や教材の提案をしていくことが重要である。そのためには、ESD と GIS 教育を中心とする中等地理教育の改革のアイデアを社会的背景を踏まえて検討していくことが求められよう。

論文審査結果の要旨

I 論文の概要

本研究は、中国の現代中等地理教育の動向について、教育課程、学習内容、指導法を中心に、ESD (Education for Sustainable Development=持続可能な開発のための教育) および GIS (Geographic Information System=地理情報システム) 教育の内容を中心にして、分析・検討することを目的とする。

本研究は3部6章から成る。

序章「研究の目的と方法」では、研究の目的、背景および意義、研究の視点として ESD と GIS 教育の捉え方を示し、中国の地理教育に関する先行研究の動向、中国の地理教育に関する日本の研究動向、中国国内での地理教育に関する先行研究の順に整理した。中国の地理教育における ESD と GIS 教育が、1990年代以降教育計画に組み込まれ、日本より早い段階で地理教育の課程で取り込まれていたことを明らかにした。中国における ESD は、国連の動向の影響を受け、国家発展の基本戦略のひとつに定められた。1992年6月に中国政府が国連の『アジェンダ21』を採択しているが、地理学以外の分野が持続可能な発展に関わる枠組みを引き受けにくかったため、ESD は地理教育で取り扱われた。また90年代には中国の高校では、地理の必修科目と選択科目が設けられ、高校地理課程標準(2003年)においてGIS教育が明記された。

第Ⅰ部「中国における地理教育の位置づけ及び最新の地理教育の現状」では中国における地理教育の位置づけ及び現状について解明した。

第Ⅰ章「中国における教育課程と地理教育の位置づけ」では、中国の学校教育制度と教科書制度の整備・充実について整理した。「国定制」から「審査・検定制」への変遷を踏まえ、中学校教科書（8社）と高校教科書（4社）を分析し、「人教版」と「湘教版」を中心に整理した。日本の学習指導要領に相当する「教学大綱」地理や「課程標準」地理の変遷および地理課程におけるESDとGIS教育に関する扱いを考察した。さらに、教育改革における中国における地理学会の役割を明らかにした。

第Ⅱ章「最新の中国の地理教育の現状」では、中国における地理学会と地理教育の関わりを明らかにするために、中国地理学会、中国人文地理学術年会、中国地理学会（華北地区）黄河分会学術年会、中国地理学会西南地区学術年会の検討、分析を通して、地理学は中国の国家発展戦略と都市発展の問題に有効な意見を提案できるだけでなく、先進的な地理情報技術を使って、各分野に貢献できる役割を果たしていることを明らかにした。また、地理学と地理教育人材育成の点では、将来を見据えた社会づくりに必要な要素も組み入れ、人材育成の役割を果たしていることを明らかにした。

第Ⅱ部「ESDについての取り扱い」では中国の中学校と高等学校の地理におけるESDについての取り扱いを分析した。

第Ⅲ章「中国の中学校地理教科書におけるESDの扱い」では、現行の義務教育地理課程標準（2011年）、「人教版」と「湘教版」刊行の教科書におけるESDの扱い及びそれらの学習内容に対応する教師用指導書における指導内容を分析・検討した。その結果、3つの示唆を得た。1点目は、中国全土にわたる多様な地域において、ESDにつながる具体的な行動や取り組み現状を学ぶ内容の設定があること。2点目は、教科書におけるESDの見方・考え方の形成を「トピック」や「活動」のコラムを用いて生徒自身に思考・判断・表現させるだけでなく、討論やディベートを通じて、論理的・批判的思考力や読図能力、ディスカッション能力などが求められていること。3点目は、中国でESDを必要とする必然性が強調されている点である。

第Ⅳ章「中国の高校地理教科書におけるESDの扱い」では、高校地理課程標準（2003年）、「人教版」と「湘教版」刊行の必修地理教科書におけるESDの扱い及びそれらの学習内容に対応する教師用指導書における指導内容を分析・検討した。その結果、4つの示唆を得た。1点目は、中国において、ESDの三つの柱として社会・経済・生態（資源と環境）が重視され、その三者をうまく調和させるものが「人による管理調整」であると捉えたこと。2点目は、中国におけるESDに関する学習内容が地理学と深く関わっており、自然地理と人文地理の視点で捉えており、中国の自然地理、人文地理への対応を生徒に理解させ、ESDの見方・考え方の形成が求められていること。3点目は、「活動」「トピック」などのコラムが多く設けられており、生徒個人の育成が求められており、正確な人口観、資源観、環境観と発展観を樹立することを目指していること。4点目は、『中国21世紀アジェンダ』におけるESD全体の枠組みを学ぶ内容を設定していることである。

第Ⅲ部「GIS教育についての取り扱い」では、中国の中学校と高等学校の地理におけるGIS教育についての取り扱いを分析した。

第Ⅴ章「中国の中学校地理教科書におけるGIS教育の扱い」では、現行の義務教育地理課程標準(2011年)、「人教版」と「湘教版」刊行の教科書におけるGIS教育の扱い及びそれらの学習内容に対応する教師用指導書における指導内容を分析・検討した。「人教版」教科書では地理情報技術として電子地図やリモートセンシングを取り扱っていた。以上のように中学校の教科書及び教師用指導書の学習内容の分析・考察においては、高等学校のGIS教育につながる内容が構築されていることを明らかにした。

第Ⅵ章「中国の高校地理教科書におけるGIS教育の扱い」では、現行の高校地理課程標準(2003年)及び人教版」と「湘教版」刊行の必修地理教科書におけるGIS教育の扱い及びそれらの学習内容に対応する教師用指導書における指導内容を分析・検討した。その結果、3点の示唆を得た。1点目は、GISが都市管理、プロセスやその発展、構成をはじめとして、多くの学習内容を設けていること。2点目は、「思考」、「トピック」、「活動」といったコラムを設けていること。3点目は、「思考」、「トピック」のコラムおよび記述内容とともに多くの図が設けられ、GIS教育に関する学習内容がわかりやすく示されていた。以上のように高等学校の教科書及び教師用指導書の学習内容の分析・考察においては、今後のまちづくりの考察につながる学習内容が豊富な思考の事例やトピックコラムとともに示されていることを明らかにした。

終章「結論」では、本研究の成果と今後の課題を挙げた。

Ⅱ 審査結果報告

1. 総合所見

本研究は、中国の中等地理教育の①教育課程、②学習内容、③指導法について、ESDとGIS教育の観点から分析・検討し、日本の次期学習指導要領に対応する新たな教材開発に取り組む際の課題を提示することを目指すものである。現代中国中等地理教育の動向に関する基礎的研究と位置付けることが出来る。審査の過程を通して、中国の教師用指導書と教科書の内容を丁寧に紹介し、中国、日本両国のESDとGIS教育に関する先行研究の中に位置づけていくための努力を継続的に行ったことは高く評価された。

2. 評価すべき点

(1) 本研究は主題の追究のために日本の学習指導要領にあたる義務教育地理課程標準(2011年)と高校地理課程標準(2003年)のみならず、「人教版」と「湘教版」の地理教科書の分析・考察を行った。さらに、教育現場ではどのように教育されているかを知るために、「人教版」と「湘教版」の教師用指導書の分析・考察を行った点に独創性を認め、地理教育研究上の価値が評価された。近年は中国での授業研究が難しい状況の中で、現代中国の中等地理教育の一端を明らかにすることが出来た。

(2) 本論文の重要な意義は、地理教育におけるESDとGIS教育という現代的な課題を論文の視

点に設定している点である。その背景には日本の中等地理教育を取り巻く状況の大きな変化がある。2022年度以降に導入される高校の次期学習指導要領において、高校地理歴史科は、「地理総合」(2単位)及び「歴史総合」(2単位)が必修科目とされることとなった。「地理総合」の柱は、「項目A 地図や地理情報システムと現代世界」、「項目B 国際理解と国際協力」、「項目C 持続可能な地域づくり」の3点であり、現代的な課題を追究する重要な内容であるが、項目Aに関しては、GISに関する従来の研究は、地理学・地理教育を専門とし、GISを得意とする研究者からの提案が主流であった。項目Cに関しては、地域性を踏まえた課題解決に向けての学習、現地調査(フィールドワーク)を通して、持続可能な地域づくり(=ESD)を展望する学習が主流となるが、経験のない教員が大半である。必修化され、従来専門家以外はあまり研究の対象とされてこなかったGIS教育やESDについては今後に向けて多くの課題を抱える。

本研究においては中国の動向だけでなく日本の地理教育への示唆に対してまで考察を加えようとしており、本研究で得た分析を日本の中等地理教育のESDやGIS教育を構築し、日本の抱えている課題を解決するために寄与すると考える。さらに、単に教科書や教師用指導書を分析・検討するだけでなく、日本の学会のみならず中国の関連学会の動向も加えている点も評価できる。

3. 課題とされる点

(1) 日本の動向を参照しながら、としているが、本研究ではその点が弱く、中国から日本への示唆に矮小化されてしまっている、という指摘があった。またなぜ、中国の地理教育についてESDとGIS教育の観点から日本で学位論文を提出するのか、中国で目指されているESDと日本で目指されているESDは同じなのか、そして本研究の中心的な視点であるESDとGIS教育の関係性が論文全体を通して不鮮明で、意義づけが弱い、という指摘もされた。

さらに、中国の教育制度の推移には言及してはいるが、中国のGIS教育の分析・検討の結果を日本の教材開発の参考とするためには中国当局の国家的・社会的統制(=国家の意図やフィルター)をどう解釈し、国家の意図がどう働いているかを踏まえ、中国の動向がどのように解釈されるのか、日本との比較でどのように分析するのか、教育学研究者が着目している現在の中国の教育思想・哲学も踏まえた論述が論文全体から感じられるような研究が望まれる。

(2) 本研究の「指導法についての研究」という目的を達成するためには、教科書や教師用指導書の分析・考察の精緻化が必要であるが、「単なる紹介」もしくは「日本語への翻訳」のレベルであると判断せざるを得ない、という厳しい指摘もあった。また、教科書の「活動コラム」の中でアクティビティーが設けられているが実際の教師の対応はどうか、GIS教育の前提としての中国のデジタル環境の整備の状況といった実際の状況を踏まえる必要がある。

4. 結論

以上の評価を踏まえて、審査委員は全員一致で、本論文が博士(教育学)を授与するに充分値するものと認められるとの結論に達した。

付記

本論文では、全国学会（日本地理教育学会）の研究誌に掲載された学位申請者の査読論文2編及び日本女子大学人間社会研究科紀要の査読論文1編、計3編の査読論文が用いられている。